

問1 日本の古墳時代にあたる4世紀から6世紀ごろ、朝鮮半島では3つの国家が互いに勢力を競い合っていました。この3つの国家の組み合わせとして正しいものを次から選びなさい。（2024年 滋賀公立入試 類似）

1. 高句麗・百済・新羅 2. 魏・呉・蜀 3. 隋・唐・宋 4. 渤海・高麗・新羅

問2 島根県内の古墳調査において、鍵穴のような形をした古墳が存在する一方で、長方形を二つ繋ぎ合わせたような形状を持つ古墳や、単純な円形の古墳も確認されています。この「長方形を二つ繋ぎ合わせたような形状」を持つ古墳の形式として正しい名称を選びなさい。（2025年 島根公立入試 類似）

1. 前方後方墳 2. 上円下方墳 3. 八角墳 4. 双方中円墳

問3 大和政権の時代、大陸から移住してきた渡来人がもたらした技術や文化について述べたものとして、最も適切なものはどれか。（2023年 鹿児島県公立入試 類似）

1. 金属を精錬する技術や、高温で焼いて作る硬い土器である須恵器の製作技術 2. 唐の法律にならって作られた大宝律令などの統治制度 3. 九州沿岸を守るために配置された防人による防衛の仕組み 4. 遣隋使によって直接もたらされた、隋の進んだ政治制度

問4 古墳時代に大陸からの渡来人がもたらした技術や文化について、当時の状況を説明した文として最も適切なものはどれか。（2024年 鳥取公立入試 類似）

1. 山の斜面を利用した穴窯を築き、高温で焼き上げる硬質の須恵器の製法が伝わった。 2. 木製農具や石包丁を用いた水田稲作とともに、赤褐色で薄手の土器が広まった。 3. 仏教が伝来し、寺院の屋根を飾るための瓦を焼く技術が初めて日本列島に導入された。 4. 表面に縄目の文様を施し、食料を煮炊きするための厚手の土器が各地で作られた。

問5 古墳時代に、前方後円墳という特定の形式が日本各地の有力者の墓として採用されたことは、当時の政治状況においてどのようなことを意味していますか。（2018年 長崎県公立入試 類似）

1. 近畿地方のヤマト政権（大和朝廷）の影響が各地に及んでいたこと 2. 各地の豪族が独自の宗教観に基づき、異なる形式の墓を競って造ったこと 3. 大陸から伝来した仏教に基づき、全国一斉に寺院の建立が始まったこと 4. 狩猟・採集中心の生活から、稲作を中心とする社会へ移行し始めたこと

問6 古墳時代を象徴する墓の形式で、円形と方形を組み合わせた鍵穴のような独特の形状を特徴とし、大阪府にある日本最大の規模を誇る大仙古墳（伝仁徳天皇陵）にも採用されている名称を答えなさい。（2025年 島根公立入試 類似）

1. 前方後円墳 2. 前方後方墳 3. 円墳 4. 方墳

問7 古墳が作られていた時代に、中国大陸や朝鮮半島から移り住んできた人々が果たした役割について、技術や文化の面から説明したもののとして最も適切なものはどれですか。（2023年 岡山公立入試 類似）

1. 須恵器の製作技術や金属加工、漢字、仏教などの高度な文化・技術を伝えた。 2. 唐の優れた制度や文化を直接日本へ持ち帰るため、定期的に使節として派遣された。 3. 鉄砲やキリスト教を日本に伝え、ヨーロッパとの貿易（南蛮貿易）を主導した。 4. 九州北部の防備にあたりとともに、防人として東国から徴集された。

問8 古墳時代から奈良時代にかけて、朝鮮半島や中国大陸から日本列島へ移り住み、当時の日本に新しい文化や技術を伝えた人々を何と呼びますか。（2023年 岡山公立入試 類似）

1. 渡来人 2. 遣唐使 3. 南蛮人 4. 防人

問9 5世紀頃、ヤマト政権の王が中国の南朝へ使いを送った主な目的として、最も適切な説明はどれか。（2020年 鳥取公立入試 類似）

1. 朝鮮半島南部における軍事的な指揮権の承認を得て、武器や農具の原料となる鉄資源を安定的に確保するため 2. 中国の進んだ律令制度を学び、仏教を公認することで、天皇を中心とした中央集権体制を確立するため 3. 魏の皇帝から「親魏倭王」の称号と金印を授かり、国内の豪族に対して自らの正当性を示すため 4. 白村江の戦いで敗れた後、唐との国交を回復し、大陸の最新文化や技術を積極的に導入するため

答え合わせ・解説

問1	答え 1 高句麗・百済・新羅	朝鮮半島では、北部の高句麗、南西部の百済、南東部の新羅の3校が対立し、抗争を繰り返していました。この情勢は当時の日本（倭）の外交や技術導入にも大きな影響を与え、日本は主に百済や加羅（加耶）の地域と結びついて行動していました。
問2	答え 1 前方後方墳	古墳時代には、最も代表的な前方後円墳のほかに、地域や時期によって様々な形状の古墳が造られました。前方後方墳は、その名の通り前部も後部も方形（四角形）で構成されており、島根県の造山1号墳や山代二子塚古墳などがその例です。このような形状の違いは、当時の地域勢力の独自性や大和政権との関係性を反映していると考えられています。
問3	答え 1 金属を精錬する技術や、高温で焼いて作る硬い土器である須恵器の製作技術	渡来人は専門的な技術を持った集団として、大和政権下で重用されました。彼らが伝えた須恵器は、それまでの弥生土器や古墳時代の土師器（はじき）とは異なり、穴窯を用いて1000度以上の高温で焼成された青灰色の硬い土器です。また、鉄製品の加工や農具の改善なども行われ、日本の農業や生活様式に劇的な変化を与えました。
問4	答え 1 山の斜面を利用した穴窯を築き、高温で焼き上げる硬質の須恵器の製法が伝わった。	4世紀から5世紀にかけて、大陸や朝鮮半島から多くの渡来人が移住し、新しい技術を日本列島に伝えました。彼らは金属器の加工や織物の技術とともに、密閉された穴窯で焼成する須恵器の技術をもたらしました。この技術により、従来の土器よりも高い強度を持つ器の生産が可能となりました。他の選択肢は縄文時代、弥生時代、または飛鳥時代以降の出来事です。
問5	答え 1 近畿地方のヤマト政権（大和朝廷）の影響力が各地に及んでいたこと	鍵穴のような特有の形状が標準化され、各地で模倣されたことは、その地域の有力者が近畿のヤマト政権と政治的な同盟関係や主従関係を結んでいたことを示しています。これにより、ヤマト政権を中心とした政治体制が広まっていったことがわかります。
問6	答え 1 前方後円墳	古墳時代の3世紀後半から6世紀にかけて、近畿地方を中心に日本各地で築かれた墓の形式です。この形式が全国的に広がったことは、大和政権（ヤマト王権）による政治的な支配や影響力が各地に及んでいたことを示す重要な証拠と考えられています。大阪府の堺市にある大仙古墳は、この形式の代表例であり、世界最大級の墳墓として知られています。
問7	答え 1 須恵器の製作技術や金属加工、漢字、仏教などの高度な文化・技術を伝えた。	渡来人は当時の日本にはなかった高度な技術を多数持っていました。硬くて灰色の土器である「須恵器」の製作、養蚕や機織り、金属の加工といった生産技術のほか、漢字や儒教、仏教などの文字や宗教も彼らを通じて伝えられました。これにより、日本の政治や生活様式は大きく変化しました。
問8	答え 1 渡来人	朝鮮半島での戦乱などを背景に、多くの人々が日本列島へ移住しました。彼らは、ため池を作る土木技術や金属加工、機織りなどの実習的な技術だけでなく、漢字や儒教、仏教などの思想や文化も日本に伝え、日本の社会や国家の形成に大きな役割を果たしました。
問9	答え 1 朝鮮半島南部における軍事的な指揮権の承認を得て、武器や農具の原料となる鉄資源を安定的に確保するため	5世紀の「倭の五王」は、中国の南朝へ遣使し、朝鮮半島南部での軍事的な優位性を認めさせることで、当時日本国内で産出できなかった鉄資源を安定して入手しようとしていました。これにより、強力な武器や効率的な農具を生産し、半島諸国や国内の豪族に対して政治的な優位を保つ狙いがありました。